

I 理念・目的・教育目標

日本および東洋の古典に関する資料の蒐集保管並びにその調査研究を行なうことを目的とする。文庫員は文庫の共同研究プロジェクトおよび個人研究の各テーマに従って文献の書誌調査を行ない、日本国内のみならず中国、台湾、韓国、米国等に所蔵される国書・漢籍等典籍類の書誌的悉皆調査を目標とする。またマイクロフィルム等による文献の複写並びに副本の作成を行ない、学問研究に役立てるとともに、慶應義塾内外に情報を公開し、学術研究の進展に寄与する。その他、斯道文庫に所蔵する文献の保全および修復に努める。

II 教育研究組織

本文庫の特色は、研究資料の蒐集整理、調査研究および副本作成に教職員全員の共同で当たることとし、教員と職員の相互協力によって事業遂行がなされている。10万冊におよぶ古典籍のデータベース化並びに日本・海外に所蔵する古典籍の全体的な調査と副本の蒐集等に、事務職員・撮影技師・研究員が一体となって取り組んでいる。

III 教育研究の内容・方法と条件整備

III-1 教育・研究指導の内容等

(1) 教育課程

上記理念に則して、大学院文学研究科修士課程に「斯道文庫書誌学講座」6講座を設置し、若い書誌学研究者の育成を目指している。また、広く人文学研究を志す大学院生に対しても、文献研究の基礎能力を育成する指導を行なっている。さらに、文庫員が大学文学部に出講し、一般教育課程における文献学教育の任に当たっている。経験を積むことが大切である書誌学の研究を考えると、今後、学部学生に対する指導も、ますますその重要度を増して行くことになると思われる。

(6) 国内外の他大学との単位互換の状況と今後の課題

本文庫設置の「斯道文庫書誌学講座」は他大学の大学院生も受講しており、大学院文学研究科による提携に則り、単位互換を実行している。

(8) 外国人留学生の受入れ・国際プログラムの実施の状況

主として中国・韓国からの留学生に対し、「斯道文庫書誌学講座」において文献調査の方法を

指導し、日本国内における文献調査の要望について、個別に指導協力を行なっている。

(10) 社会人の再教育・生涯教育の実施状況、また社会人学生に対するカリキュラム・研究指導上の配慮

図書館員・学芸員、その他、文献資料を扱う一般社会人に対し、資料の管理、調査および公開に関する個別の相談に応じている。

Ⅲ－２ 教育・研究指導方法とその改善

(3) 適切な履修指導または効果的な研究指導を行うための制度・工夫

専門を異にする研究員間の連携を密にして学生の指導を行ない、各種研究会を設置して門戸を開いて、学生、研究者の参加を募り、随時これに応じている。

(4) 教育改善または教育研究指導方法の改善への組織的な取り組み

書誌学の教育に当たっては、古典籍の原本に接することが前提になる。本文庫ではこのことに鑑み、教材としての古典籍原本の体系的蒐集を行なっている。また、これを補完する意味で、デジタル画像を利用した教育を導入し、その実施環境の面においても機材の拡張設置を推進している。

(5) 授業の適正人数規模

本文庫では、研究および教育の専門性に鑑み、10名前後を目安とする少人数を対象とした、個別かつ長期継続的指導を基本に授業を行なっている。

Ⅲ－３ 国内外における教育研究交流

(1) 国際交流推進に関する基本方針および国際交流の現状と課題

日本国内における文献調査を希望する各国の研究者を随時受け入れ、共同研究に当たっている。例えば、中華民国故宮博物院・蘇篤仁氏（日本学術振興会外国人流動研究員）、大韓民国中央大学校・沈偶俊氏（日本学術振興会外国人招聘研究者）、中華人民共和国北京大学中文系・陳捷氏（本塾・北京大学間の協定による訪問研究員）等の研究者と交流を行なった。

Ⅳ 研究活動と研究体制の整備

Ⅳ－１ 研究活動

(1) 論文等研究成果の発表状況

毎年、研究紀要「斯道文庫論集」（現在第 38 輯に至る、平均 400 頁）を発刊し、全研究員が研究成果を公表している。本論集については、国立情報学研究所の運用するウェブサイト「研究紀要ポータル」においても PDF 形式のファイルとして公開されている。また本文庫編集による『江戸時代書林出版書籍目録集成』4 巻を始めとする「斯道文庫書誌叢刊」6 種、『百二十句本 平家物語』を始めとする「斯道文庫古典叢刊」5 種を既刊している。さらに各研究員が所属する学会誌等に、随時成果を公表している。

(2) 特筆すべき研究活動状況

慶應義塾の学事振興資金、松永記念文化財研究基金等を活用する他、特定領域研究「東アジア出版文化の研究」等、文部科学省科学研究費を申請し、調査研究と研究成果の公刊に役立てている。また、これまで斯道文庫が撮影、作成したマイクロフィルムの目録を公刊し、内外の研究者の要請に応じている。なおマイクロフィルム目録に関しては慶應義塾学事振興資金の援助を仰ぎ、現在、増補訂正版のデータベース化を終え、ホームページの開設に伴って、インターネットによる検索が可能になった。文庫員は国内・国外の大学・文庫・図書館等に調査に出向き、現地の研究者と学術的な交流を行なっているが、斯道文庫所蔵の典籍やマイクロフィルム類を閲覧に訪れる研究者との情報交換・研究協力も行なっている。具体的な研究項目として、以下の事業があげられる。

○研究事業

(1) 国書の部

I. 中古・中世期を主とする和歌並びに物語の研究

1. 勅撰和歌集諸本の研究
2. 私家集・歌合等の研究
3. その他

II. 室町以前成立の歌書・注釈書の総合的書誌調査

1. 歌書注釈書類の書誌調査研究
 - ア. 古今集注釈書
 - イ. 歌学書の書誌調査
 - a. 六条藤家歌学書類の研究
 - b. 中世歌学書の研究
 - c. 飛鳥井家の研究
 - d. 歌枕書の研究
 - ウ. その他

III. 中世物語・伝記類の研究

1. 室町時代物語諸本の研究
2. 聖徳太子伝記類の研究
3. 人麿影供及び人麿伝記類の研究

IV. 中世漢学の研究

1. 中古漢詩文集の調査研究
2. 中世禅林注釈書・類書の調査研究
3. 中世禅林漢詩文集・法語集の研究
4. その他

V. 近世国学並びに漢学研究

1. 伴信友自筆稿本並びに書入本の調査
2. 橋守部自筆稿本類並びに書簡の調査
3. 松崎慊堂自筆稿本並びに書入本の調査（著作類書誌解題の作成）
4. 狩谷椽斎自筆稿本並びに書入本の調査
5. 服部大方自筆稿本の整理と調査
6. 林家関係資料の整理と調査

VI. 近世漢詩文集の書誌調査

(2) 漢籍の部

I. 漢籍総目録編纂のための書誌調査並びに研究

1. 経部
2. 史部
3. 子部
4. 集部

II. 漢籍の書誌研究

1. 中国版本（宋元版・明清版）の調査研究
2. 旧鈔本の調査研究
3. 古刊本（五山版・古活字版）の調査研究
4. 和刻本（江戸時代刊刻漢籍）の調査研究
5. 朝鮮版の調査研究
6. その他

(3) 和漢書誌学・目録学

I. 蔵書調査・目録の作製

1. 斯道文庫蔵特殊文庫善本類他
 - ア. 坦堂文庫目録の作成
 - イ. 浜野文庫目録の作成
 - ウ. 複写資料のデータベース化及びマイクロフィルム等目録第二輯の編纂
2. 旧藩校等の蔵書調査・目録作成
 - ア. 米沢藩興讓館蔵書
 - イ. 庄内藩致道館蔵書
 - ウ. 新発田藩旧蔵書
 - エ. 高田藩修道館蔵書
 - オ. 松本市立図書館崇教館蔵書
 - カ. 紀州藩文庫蔵書
 - キ. 島原図書館松平文庫
 - ク. 人吉藩旧蔵書
3. その他諸文庫の蔵書
 - ア. 慶應義塾大学言語文化研究所蔵永島文庫調査
 - イ. 日光輪王寺天海蔵漢籍準漢籍類の調査
 - ウ. 建仁寺両足院蔵書調査
 - エ. 陽明文庫蔵漢籍準漢籍類の調査
 - オ. 鹿児島大学岩元文庫蔵書調査

II. 書物文化史の研究

1. 近世を中心とする日本出版文化史
2. 西欧出版物の挿絵に見られる日本と中国
3. 和漢辞書類の調査研究
4. その他

○研究助成

本文庫収集マイクロフィルム資料データベースシステムの再構築（本塾学事振興資金）
和漢の辞書・類書の書誌的研究
（文部科学省科学研究費補助金・特定領域研究「東アジア出版文化の研究」計画研究）

(2) 付属研究所との関係・将来展望

文学部専任教員・メディアセンター職員を本文庫研究嘱託に委嘱して、本文庫の事業計画への参加を得、全学的な所蔵資料の整理研究を行なっている。また本文庫の事業計画を推進するため、研究嘱託を含む専任教員との共同研究会を組織し、成果の充実に努めている。

IV-2 研究体制の整備（経常的な研究条件の整備）

(1) （個人・共同）研究費・研究旅費の充実度・問題点

本文庫の研究事業計画の中心である出張調査のための研究旅費を毎年度の通常予算に計上し、2003年度は専任教員6名および研究嘱託・撮影技師各1名をあわせ、国内22回（のべ163日）、国外5回（49日）の出張を実行した。その成果については出張報告書を作成し、研究所共有の財産として調査書目および調査書に関する書誌データの蓄積を図っている。国外出張に関しては、文部科学省科学研究費補助金等を申請し、研究旅費に充当している。

(2) 教員研究個室等の整備状況と将来計画

各研究員に専用の個室、また共同研究室1室、コンピュータ室1室、会議室1室、閲覧室事務室1室、撮影現像室1室を設置している。本文庫の主要な施設である書庫に関しては、6年計画で書架の更新を行ない、蔵書の配置換えを実施し、蔵書数の増加に備え万全を期しているが、将来的な増冊に鑑みた時には、狭隘化の予測を免れ得ない現状である。

(3) 教員の研究時間を確保させるための方途

本文庫においては通常の事業計画遂行のために、登庫して研究に従事することを原則としている。従って長期的な研究休暇等はないが、調査研究遂行のために在外研究や交換制度を利用した海外留学等も今後の視野に組み入れている。

(4) 特筆すべき競争的な研究環境の創出

文庫員共同の研究に対する科学研究費交付の1998年以降の実績は以下の通りである。

1998・1999年度 基盤研究(C)(2)「聖徳太子伝諸本の総合的研究」(280万円)
2000・2001年度 基盤研究(C)(2)「古今集注釈書データベースの作成」(210万円)
2001～2003年度 特定領域研究(A)「和漢の辞書・類書の書誌的研究」(1080万円)

また同じく、文庫共同の研究に対する学内研究費の交付については、以下の通りである。

(学事振興資金)

1998～2003年度「本文庫収集マイクロフィルム資料データベースの作成」等(536万円)
(松永記念文化財研究基金)
1998～2000年度「服部大方自筆稿本類の修補復元と解題研究」(294万円)
2001・2002年度「近世後期漢学者自筆稿本の修補と研究」(220万7千円)
2001年度「林泰輔遺著『亀甲獣骨文字表』の復原と保全」(19万6千円)

以上の研究は本文庫の研究事業テーマに即したものであり、文庫員全員が交付金執行の時期や配分について協議し、その適切な運用に当たっている。

(5) 研究論文・研究成果の公表を支援するための措置や大学・研究機関間の研究成果を発信・受信するシステムの整備

塾内のサーバー上に置く本文庫のウェブサイトにおいて、本文庫の調査収集したマイクロフィルム資料の目録データベースを公開し、書誌情報の提供とフィルム閲覧の用に供する準備をほぼ完了した。また研究紀要「斯道文庫論集」については国立情報学研究所の運用するウェブサイト「研究紀要ポータル」においてPDF形式のファイルとして公開されている。

(6) 研究等における倫理性の確保

本文庫収集資料の閲覧公開や、これらを利用した本文庫研究員の研究成果公表については、対象文献所蔵者の意向に十分に配慮し、資料の掲載、使用等に関して厳正に対処している。

V 学生の受入れ

(3) 学部・研究科等の理念・目的・教育目標と学生受入方針の関係

広く古典籍に関する知識を有する学生を育成し、また専門に書誌学研究を行なう若手研究者の養成に努めている。

(7) その他の特記事項

随時他大学の学生ならびに留学生、また職務上書物研究に携わる社会人に対しても、書誌学の指導を行なっている。

VI 教育研究のための人的体制

(1) 教員組織

現在、日本・中国の古典籍を対象とする総合的な研究を遂行するため、専攻分野を異にする専任の研究員6名および研究嘱託4名が、相協力して事業に当たっている。

(2) 研究支援職員・組織の充実度

事務主任（兼任）、事務員、撮影技師、事務嘱託各1名が、図書の整理、資料収集等の研究業務の補助に当たっている。

(5) 教員の募集・任免・昇任

教員の募集・昇任等の人事に当たっては、本文庫の研究理念に沿った人材を確保奨励すべく、斯道文庫会議並びに斯道文庫委員会の協議によって決定している。

(7) 教員の教育・研究活動や研究活動の活性化合いについての評価方法

文庫員による会議を定期的に催し、各員の研究活動進捗状況を報告し、相互の評価によって活性化を図っている。年に1度、研究事業計画の点検と見直しを行ない、全体の事業計画を彙報にまとめて公開し、各員の年間研究および計画書を作成して、その達成に努めている。

(8) 学内外の教育研究組織・機関との人的交流の状況

調査出張および他機関主催共同研究への参加を通じ、関係の研究者と密接に情報交換を行なっている。また内地留学・研修等で派遣される研究者についても、随時受け入れを図っている。

VII 図書館および図書等の資料、学術情報

(1) 図書館資料等の質および量（コレクションマネジメント）

本文庫は、財団法人斯道文庫蔵書約70,000冊、慶應義塾移管後の収集書約40,000冊、寄託書約37,000冊を有する。その内訳は、特殊文庫として椎本文庫（橘守部自筆稿本）240冊・安井文庫（安井息軒自筆稿本等）6,000冊・浜野文庫（浜野知三郎氏収集漢学資料）11,400冊、亀井家学文庫（亀井南冥・昭陽自筆稿本）370冊・平岡文庫（本塾名誉教授平岡好道氏旧蔵国文学書）3,200冊等があり、さらに財団法人永青文庫の寄託を受ける坦堂文庫（中国文学者古城貞吉旧蔵書）28,000冊・コルディエ文庫（フランス人東洋学者アンリ・コルディエ旧蔵書）5,000冊、また神田寺より寄託を受ける明治仏教史編纂所蔵書 新聞・雑誌727種 和漢図書2,530部・本塾言語文化研究所より寄託を受ける永島文庫（中国語学者永島栄一郎旧蔵書）1,700冊等を擁し、また上記以外の財団法人時代収集書約50,000冊、慶應義塾移行後、随時新収を加えた和漢の善本・

参考書を併せれば、現蔵書約 110,000 冊および寄託書約 37,000 冊に上る。他に、本文庫の主要な事業項目の 1 つである、国内外の図書館文庫所蔵資料のマイクロフィルム等による副本として 100 フィートフィルム約 7,000 リール、紙焼き写真約 7,000 冊を蔵する。

(2) 図書館施設の規模、機器・備品の整備状況（ハードウェア）

三田旧図書館に第一書庫として 1 層、並びに第二書庫として 2 層を有し、第二書庫内に貴重書室を設置、他に閲覧室 1 室、参考用レファレンス室 1 室があり、内部に貴重書用ロッカー 26 台、一般書架複式 300 連、単式 200 連、マイクロフィルムキャビネット 32 台・マイクロフィルムリーダー 8 台・マイクロフィルムリーダープリンタ 1 台・カードボックス 3 架を設置している。

(3) 図書館サービスの状況（ソフトウェア）

本文庫には、図書閲覧複写規程を設けてあり、所定の願書を提出することによって閲覧または複写をすることができる。具体的な資料の照会に関しては、各研究員が個別に応じる。

(4) 学外との相互協力、社会貢献（アウトリーチ）

学外の図書館並びに博物館、美術館等の展示企画に際して資料提供を行ない、求めに応じ企画協力も行なっている。

Ⅸ 社会貢献

(1) 社会人向け教育プログラム・公開講座の開設状況

年 1 回、書誌学の専門研究者を招いて「斯道文庫講演会」を開催し、社会人を含む一般に対して書誌学の普及を図っている。また 2002・2003 年度には、指定寄付金による神田寺記念公開講座「書物と日本仏教」を企画し、前後 6 回にわたり開催した。

(3) 研究成果の社会への還元

地方自治体の文化事業に関係して、自治体関係者の諮問に応じ、書物の保存、管理、利用等の意識の高揚に努めている。また類縁研究機関の共同研究に積極的に参加し、企画運営委員や公開講演会・研修会の講師としても協力している。

Ⅹ 財政

Ⅹ-2 外部資金等

(1) 文部科学省科研費、外部資金（寄附金、受託研究費、共同研究費等）の受入れ状況

近年の科学研究費受入れについてはすでにⅣ-1(2)にも記したが、2001～2003 年度に交付

を受けた特定領域研究「東アジア出版文化の研究」計画研究「和漢の辞書・類書の書誌的研究」について記せば、総額で1080万円の交付を得、下表のように執行した。

(附表1) 科学研究費支出表

	総額(千円)	備品	消耗品費	国内旅費	国外旅費	謝金	その他
2001年度	4,000	1,838	675	580	642	56	206
2002年度	4,000	1,388	224	633	1336	54	362
2003年度	2,800	207	905	469	933	0	282
累計	10,800	3,433	1,804	1,682	2,911	110	850

本文庫の事業計画に沿って、古典籍資料のデジタル画像化のための設備設置並びに原本調査を目的とする国内外出張を主要な費目とし、備品等は全て斯道文庫に登録設置するなどして、適切に執行された。

2002・2003年度にわたって執行された神田寺よりの指定寄付金100万円の内訳については、明治期資料の脱酸化処理および神田寺記念公開講座6回の開催に当てた。

XII-3 予算配分・予算執行のプロセスの透明性

研究費の予算配分については、斯道文庫会議における協議に基づき、斯道文庫委員会の承認を得て、研究支援室等の管理を得るなどして、適切に執行している。

XIII 事務組織

XIII-1 事務組織と教学組織との関係

上記VI(1)(2)で述べたごとく、研究事業計画に関わる、図書受け入れ整理・配架、資料撮影現像焼き付け等の業務につき、両組織が緊密な連携のもとに、遂行している。

XIII-2 事務組織の役割

(2) 予算編成過程における事務組織の役割

毎年度予算申請に際し、文庫会議において、文庫研究員ならびに事務主任が協議に当たっている。

XIII-3 事務組織の機能強化のための取組み

本文庫の事務職務上、最も重要な内容である図書の整理分類については、随時、事務職員が文庫研究員の共助のもと行っている。2003年度には、図書整理担当の事務職員1名が、京都大学人文科学研究所東洋学文献センター主催の漢籍講習会に5日間参加し、専門知識の研修に当たった。

XIV 自己点検・評価

(1) 大学全体および各学部・研究科等における恒常的な自己点検・評価システムの確立状況

毎年度の始めに文庫会議を開催し、研究事業計画にのっとり、文庫研究員・研究嘱託がそれぞれの年度における研究計画を発表し、次年度にその達成度を相互に検討評価している。

(2) 自己点検・評価の結果を将来の改善・改革につなげるための仕組み

上記の文庫会議の評価に基づいて、文庫委員会が、本文庫の事業計画の遂行について点検評価し、適宜、指導している。

以 上